

# 設立40周年へ、ヒーブの 役割、発揮へ向けて

日本ヒーブ協議会・宮木由貴子代表理事



年の成果を踏まえ、今後も「ヒーブならではの」取組を推進していく予定です。

ヒーブでは今年度の活動テーマを「三位一体で描く消費環境デザイン〜消費者・企業・行政で紡ぐ次世代の消費社会〜」とし、企業と消費者のみならず、行政と企業、行政と消費者との連携推進へ向けた重要な取組課題を提起しました。三者の連携を推進する「パイプ役」としての役割も発揮し、社会的期待感に応える活動を展開していきたいと考えます。

四十周年を迎えるにあたっては、昨年から記念事業に取り組んでいます。十二月十五日には「二十一世紀の消費社会と男女共同参画をふり返る〜女性視点は企業をどう変えてきたか〜」

と題するシンポジウムを都内で開催しました。消費者・企業・行政の二十年間を振り返り、今後の十年を見通すヒントを模索するイベントです。経済産業省の担当官や長年ヒーブを支援してきた企業の方々をお招きし、次世代の消費や社会のあり方について参加者とともに考えました。同集いの成果は四十周年事業へと反映させていきたいと考えています。

また、行政との連携では、日本ヒーブ協議会の関西支部並びに九州支部において、内閣府・男女共同参画推進連携会議の共催事業を実施しています。昨年十月には大阪で、十二月には福岡でパネルディスカッションを開きました。今年一月十三日には熊本でも「働

きやすい地域は暮らしやすい!九州男女」の共同参画「ワーキングスタイルから考えるまちづくり」というテーマでシンポジウムを開催予定です。企業の取組事例をもとに働きやすさや暮らしやすさの要件について消費者、企業、行政など参加者とともに意見を出し合い、話し合う場として位置付けています。

四十周年は今後の活動への重大な結節点です。日本ヒーブ協議会が国の政策を検討する審議会等に委員として委嘱要請される機会も増えてきました。ヒーブの社会的責任が増していることを実感しています。その責任を果たし、社会的期待に十分応え得る取組を今年もいっそう積極化させていきたいと思えます(談)。